

創立二十五周年
記念アルバム



住吉カトリック教会

1960

このアルバムを

住吉カトリック教会の創設を奨励された

故ヨハネ、バプチスタ、カस्ताニエ司教に捧げる

構成	深山 晃 難波 重
文	藤高 輝次
現況写真	千葉 健吉
印刷	坂本 元次

表紙写真——住吉カトリック教会正門

住吉カトリック教会

創立二十五周年を迎えて

住吉教会が創立されて以来 25 年、その間の歴史を記念したいとの信者の希望によりこの写真アルバムが出版される事になりました。

1935 年、阪神御影駅附近に一軒の家を借りる事が出来ましたが、それは聖堂と神父館を兼ねたものでした。その当時の信者の数は 116 人でしたが、25 年後の今日では 655 人になり、又その間には、1948 年に六甲、1952 年に灘、と二つの新しい、教区がここ住吉教区から誕生し、いづれも今日盛な活動をつづけております。

種々困難があつたにも拘らず教会の建設は少しづつ成長を示し、1936 年には現在の位置、住吉丸の後に着きました。1938 年の水害、1945 年の戦災による焼失、そして 1953 年の台風などは、教会に大きな損害を与えましたが当時在任のモラ、デラ、西村、及びベローの諸神父の努力と信者の献身的な協力により総べては修理整備され、1954 年には一つの新しい事業として幼稚園さえ創立されたのでした。このアルバムを見る時、私達は先づ、総べての力のもとである神様及び創立以来住吉教会に尽して来られた諸神父方、信者達に感謝の念を捧げる気持ちで一杯です。25 周年記念の催は住吉教会と云う大きな家族を一層堅く結びつけることと信じます。又この家族の霊的発展の為に尽す力を与えられることと 생각합니다。これは私達一人一人の身分や能力に拘らず神様が総べての人に強く求めているものです。輝かしい真の生きた深い信仰と主祷文の"御国の来たらんことを"の言葉が実現される熱望を皆が持つ事を望む次第であります。

今、住吉教会に於ては、ヨゼフ会、婦人会、J.O.C、青年会、聖歌隊及び二つのレジオ・マリエのグループがあります。この中には信者達の信仰を守り、成人の受洗などに力をつくして司祭達を助けている熱心な信者がおります。神の光栄の為にこの様な信者が一人でも多くなる事を望んでやみません。

主任司祭 メルシエ神父

ポーロ 田口芳五郎司教

1902年7月20日 長崎県出生
1928年12月 司祭叙階(ローマにて)
1941年11月 司教叙階、同時に大阪教区長

アルフレッド・メルシエ神父

1905年2月19日 仏国ノロ県(グル教区)に出生
1930年3月15日 司祭叙階
1930年10月22日 日本渡来

ヨゼフ・デーラー神父

1906年4月2日 仏国ルアール県(リオン教区)出生
1930年12月20日 司祭叙階
1935年12月16日 日本渡来

ロージェ・ベロー神父

1925年1月5日 仏国出生
1949年5月29日 司祭叙階
1949年12月 日本渡来

大阪教区長 田口芳五郎司教



現任の三司祭



助任 デーラー神父



教会創立者
主任司祭 メルシエ神父



助任 ベロー神父

住吉カトリック教会年譜

昭和十年五月五日 兵庫県武庫郡御影町申御田九三二番地の一に仮聖堂設置さる。主任司祭メルシエ神父

昭和十一年五月 同県武庫郡住吉村丸の後一一三四番地に本教会千二百五十五坪購入、七月より神父館建築着工、ついで日本式聖堂も着工し同年十二月十三日竣工、献堂式挙行される。

昭和十二年九月 メルシエ神父は夙川教会の主任に転出され、大阪田辺教会よりデーラー神父主任として来任される。

昭和十三年三月 デーラー神父は再び田辺教会へ。代つて鷹取教会よりモーラー神父主任として来任される。同年七月五日神戸地方大水害に住吉川氾濫して土砂流入し教会もかなりの損害をうける。

昭和十四年九月 モーラー神父東京へ転出され、代つて川口教会よりビロース神父来任される。

昭和十六年二月 カスタニエ大阪司教来任されて、主任となり、ビロース神父は助任となられる。

昭和十八年三月 カスタニエ司教死去される。

ビロース神父主任となり西村神父助任として来任されたが、間もなく西村神父は召集されたので、代つて再びデーラー神父主任として来任されビロース神父助任となられる。

昭和二十年八月 神戸空襲により八月六日、聖堂焼失する。よつて伝道館を仮聖堂として爾後ミサを執行した。

昭和二十五年六月 デーラー神父休暇を得て一時フランスに帰国され、代つてジュセン神父主任として来任される、十一月助任であつたビロース神父は老衰のため死去される。

昭和二十六年二月 ジュセン神父休暇のため一時フランスに帰へられ、代つてベロー神父来任され、主任となる。

昭和二十七年 神戸市の都市計画により、教会の北と東及南側の道路拡張のために教会敷地収用され、その代償として西側に稍拡張されたが全体としてかなりの縮小を余儀なくされる。このため、伝道士宅、仮聖堂は移転させられ、正門も従来東にあつたのを北側に変更する。

昭和二十八年九月 台風十三号のため、仮聖堂は無惨にも屋根を飛ばされて損壊、使用不能となつたので爾後神父館にてミサを挙げられる。

昭和二十九年 信者一同協力して聖堂復興再建に着手する。かねての計画通り先づ幼稚園を開設することに決め、三教室一棟を建築し、星の園幼稚園として四月開園する。その教室を仮聖堂として日曜日のミサを執行した。この年六月帰仏中病を得て療養中だつたデーラー神父漸く回復して帰日され住吉教会主任となられる。

昭和三十年四月

幼稚園遊戯室を増築して竣工。

昭和三十一年十月、デーラー神父東京へ転任され、代つてメルシエ神父三田教会より主任として来任される。

十二月待望の新聖堂落成し献堂式を挙行。

昭和三十三年十月

デーラー神父東京より帰神され、助任となられる。

昭和三十四年五月

メルシエ神父休暇にて帰仏。

昭和三十五年二月 メルシエ神父帰日、同年四月ベロー神父休暇にて一時フランスへ帰国される。

故ヨハネ・バプチスタ・カスタニエ司教

1877年1月7日 仏国出生
 1899年9月23日 司祭叙階
 1900年1月 日本渡来
 1918年8月29日 司教叙階
 1943年3月12日 帰天

故ヨゼフ・ビロース神父

1867年7月16日 仏国出生
 1890年3月1日 司祭叙階
 1890年6年12日 日本渡来
 1950年11月9日 帰天

アンリー・モラ神父

1911年3月10日 仏国出生
 1934年7月2日 司祭叙階
 1936年10月 日本渡来

モーリス・ジュゼン神父

1898年6月7日 仏国出生
 1929年6月29日 司祭叙階
 1929年10月 日本渡来

ヨハネ・西村良次神父

1911年9月29日 和歌山県出生
 1939年3月21日 司祭叙階

エミル・タペルニエ神父

1922年10月13日 仏国出生
 1947年6月29日 司祭叙階
 1950年10月 日本渡来

歴代主任司祭の面影



七代 ヲユゼン神父



四代 故ビロース神父



初代 ヲルシエ神父



八代 ヲロー神父



五代 故カスタニエ司教



二代 ヲーラー神父



八代 タペルニエ神父



六代 西村良次神父



三代 ヲラ神父

創立当時の聖堂は戦災のために焼失し、その後使用されていた元伝道館を改装した仮聖堂も又昭和二十八年の台風の厄に会って、壊滅したため、信者達は浄財の募金に奮起し三年間一致協力した結果目標額を得たので新聖堂を建設することになった。着工したのは昭和三十一年八月、その年の十二月には出来上ったので、同月九日田口司教を迎えて盛大な献堂式を挙行了した。

新聖堂は日本でも初めての、全く新しいキュービズムに素朴な日本調を加味した様式を採用し、内部祭壇上の十字架にはサハラ沙漠の隠聖者シヤルル、ド、フーコーが自ら作つて秘蔵、崇敬されてゐた礫像をかけたのみで、従来他の聖堂に見られる様な複雑な装飾を全く捨て、簡素にし、入る者の心を純粋に無限と信心の世界に引き入れる様にしてゐる。

設計 東畑建築事務所社長
東畑謙三氏
施工 株式会社竹中工務店

建坪 70坪
総工費 約400万円

住吉カトリック教会の聖堂とその内部



御影、住吉の地は古くから灘五郷の一部をなす酒造の土地であり、又住宅地としても近年とみに発展して来たので、時のカスタニエ司教は早くから教会設置を計画され、昭和十年まづ御影町申御田に日本家屋を購入して教会を設けた。初代主任司祭としてメルシエ神父が当られ伝道士としては和田実氏が同神父を助けた。それまでは下山手教会と夙川教会の所属となつてみた土地の信者が中核となり、教勢を拓げて行く事となつたが、翌十一年には住吉村丸の後(現在地)に新しく土地千二百五十五坪を購入して、本聖堂の建設に着手した。同年十二月司祭館と聖堂が竣工したのでカスタニエ司教によつて、献堂式を挙行了した。

聖堂は日本式建築で北側に廊下を有する、約百畳敷の畳座敷に腰掛けを置いたものだった。そして祭壇正面には、聖堂を奉獻された聖人、聖ポーロ三木の武士姿の聖影を描いた絵を掲げた。司祭館は聖堂の西側につづいていて、木造モルタル張りの二階建洋館、これは現在もそのまゝ残つてゐる。

二代目の主任はデーラー神父、三代目モーラー神父と変つたが、教勢は次第に発展した。ところが昭和十三年の七月には忘れもせぬ神戸大水害で、住吉川が氾濫し猛烈な泥水が教会を埋めつくした。その流入した砂が今日でもそのまゝ残つて教会の庭を蔽つてゐるが、その時モーラー神父と、和田伝道士は死を賭して、近所の人三家族九名の生命を洪水の中から救つた美談が伝へられた。

昭和十六年には日本の主な教区には日本人司教が司牧することになり、大阪には田口司教が任ぜられたので、カスタニエ司教は隠退することになり、その地位を去つて、住吉教会の主任司祭として来任された。助任は久しく川口教会にあつたビロス神父であつたが、老司教はやがて病を得られ翌々年この教会で帰天されたのは惜しい限りであつた。遺骸は涙の中に神戸春日野の墓地に葬られた。

その頃若い日本人神父西村良二師が助任として活躍され、やがて召集されて軍務に服した。その頃戦争はいよいよ熾烈となり、遂に昭和二十年八月聖堂は敵襲によつて焼失したが、時のデーラー神父の決死の奮闘によつて司祭館及伝道館は災害を免がれたのは不幸中の幸であつた。

聖堂がなくなつたので止むなく伝道館を仮聖堂として、そこで信者達はミサに与つたのである。

終戦直後の仮聖堂とその内部



焼け残つた司祭館



仮 聖 堂 (旧伝道館)

仮 聖 堂 の 内 部



第 一 期



第 二 期

戦争は悪夢の様に去って、残ったものは生ひ茂る夏草のみといった住吉の地、市街の凡ては焼けてしまったが、教会では司祭館、伝道館、伝道士宅が焼け残った。而しそれもほんの束の間、その後すぐに又市街地の片付けと区劃整理という困難な問題がつづいて来たのである。その結果、教会の広い土地も、北側、東側、及び南側が大きく削りとられ、僅かに西部つづきに代替地が交附されただけで総面積は大きく縮少した。

その時仮聖堂と、伝道士宅は新敷地の中へ移動せねばならぬ事となり伝道士宅はそのまゝ移転したが、仮聖堂は、移転工事と同時に改造され、入口は写真に見える通り立派になった。

けれども運命のいたづらは、又もこの教会を悩ますことになったのである。それは昭和二十八年九月の十三号台風である。その日主任のペロー神父は生憎不在であつたが、夕頃帰館し、仮聖堂の屋根が無残にも吹きとばされ見るかげもなくなつてゐる姿を見て、その跡にたゞずみ、全く声もなかつたという。その時丁度デーラー神父はフランスに帰国療養中の出来事であつた。

都市復興計画の爲め移転
改築後の仮聖堂



移転工事中の仮聖堂

改築後の仮聖堂



十三号台風にて破壊した仮聖堂の惨状

これより先、デーラー神父の留守中、主任をされてみたベロー神父はマリア様に対する信心厚く、特にルルドの姫君に対する信仰から、教会内にルルドの洞窟を作ることを発願された。信者もこれに呼応して一同応分の寄金を醸出し、教会西部の一隅に庭園師の手を煩わして洞窟を作つて聖母の御像を安置し昭和二十七年秋神戸地区会長エルベ神父の手で祝別式を行つた。

又仮聖堂が台風十三号のために損壊し、日常ミサさへ行う場所がなくなつたので、しばらくは神父館の一室で日曜日のミサが行われた。ミサを行う広い場所を作るためにも、かねてベロー神父の手で計画されてみた附属幼稚園の建設を急ぐこととなり、昭和二十八年九月着工、その年の十二月に一部竣工してクリスマスには待望のミサが行われた。そして翌年の四月には園児の初入園式を行われたが、やがて幼稚園の発展とともに最初出来た三教室も手狭となり、三十年には更に遊戯室を増築することになり、これが四月には完成して、漸く今日の星の園幼稚園の形態をととのへることとなつたのである。

聖堂横のルルド



教会附属の星の園幼稚園



運動場

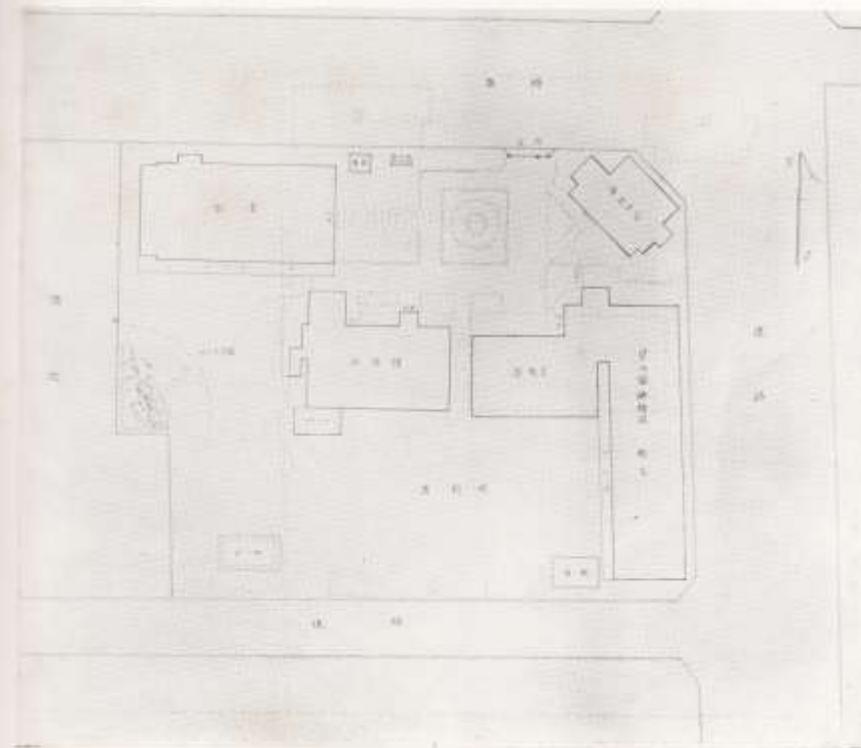
新しい聖堂も、ローマ聖庁よりの援助と、神父方の母国フランスより寄附があつたので、住吉教会でも復興委員会を中心として信者一同はよく協力し、基金を集めることに成功して見事完成した。その設計には住吉在住の東畑謙三氏が無償にて引き受けて下さったことは全くの感謝であつた。聖堂の完成によつて、司祭館、伝道士宅、幼稚園、それにルルド洞窟と、一応教会として整つた形態をそろえることが出来たのである。教会創設の発願者であつたカスタニエ司教が今見られたらどれほど喜ばれたことかとその死は惜しまれる。

上の写真は現在の教会の航空写真、下はその平面図であるが、同時に点線を以つて創立当時の教会敷地と建物の配置を示した。Aは伝道士宅の元の位置、Bは旧伝道館にて、後に仮聖堂となつて今の聖堂の所に移転されてあつたが十三号台風にて損壊した。Cは戦災にて焼失した旧聖堂があつた位置である。司祭館は勿論創立当時そのまゝのもの、但しその位置は当初の位置では教会敷地内の西部にあつたのだが現在では敷地の中央になつてしまった。

住吉カトリック教会の俯瞰図と平面図



飛行機上より見た所



御影町申御田にメルシエ神父が教会を始められた当時は、教会の受持区域は東は芦屋川から西は大石川まで、南北は山麓から海岸までの土地であつて、そこに信者は百十六人しかいなかった。しかし信者の集りとしては祈禱の使徒会、青年会、姉妹会、又聖歌隊などがあつて、青年男女の活動も活潑であつた。その後信者の出入もかなりあつたが、年を追つて信者は増加し今日では六百数十人に達している。その間今日迄に信者の中より、司祭二名修道女十一名、現在大神学生六名を輩出した。これも歴代神父の熱心な指導の賜物であること勿論であるが信者の熱心も見のがすことは出来ない。左に見られる写真の中には今日尚住吉教会所属信者として献身してゐる人の姿が見えるのはなつかしい。又初代のメルシエ神父が二十五年後の今日再びこの教会の主任として復帰してゐられるのも奇縁といわねばなるまい。伝道士は初代が和田実氏。二代目は和田保子さん。現在は三代目で原田すき子さんである。

聖堂創設当時の信徒達



祈禱の使徒会員



姉妹会の人達



過去二十五年間の歴史をふりかへつて来た眼を、今度は現在の教会の姿に向けて、どのような発展ぶりを実際に示してあるかを詳しく見てみよう。現在(十一月一日)信者数は六百五十五人、その区域は東は東灘区より、西は大石川まで北部は六甲山より水道筋、又南は海岸迄となつてゐる。当初より縮小されたのは、新設の六甲、灘教会に地域を譲つたためである。又この一年間に約二十人の人が洗礼をうけた。又グループ活動も非常に活潑でヨゼフ会婦人会の外約七ツの会やグループが作られてゐる。教会委員としてはAM、SN、TK、GH、TIの五氏がつとめてゐる。そして又幼稚園では三ツのクラスに別れ三人の先生の下合計六十人の園児が楽しい毎日を送つてゐる。各グループの状態は次の通り。

ヨゼフ会 会員は家庭の主人全部、即ち男子既婚の壮年信者で現在会員数約 80 人。ニヶ月に一回位の例会を開いて会員の親睦と、教理や聖書の研究。及び教会の種々の催に対して奉仕をしてゐる。

あけの星会(婦人会) 家庭の主婦にて組織し、月二回例会を開いて、会員の親睦と修養につとめてゐる。聖堂の掃除、祭服の修理、バザーの準備、それに暁光会の手伝等に奉仕してゐる。 現在会員数約百二十人

カトリック青年労働者連盟住吉支部(J.O.C) 俗に「ジョツク」と称する青年の集り。働いてゐる未婚青年男子で組織し全国各教会の支部と連携しつゝ、あらゆる所でキリストの代理者として行動するために研究し、団結してゐる。現在会員約六人女子も又別に J.O.C.F として組織される。毎週一回研究会を開いて、神父の指導をうけ、教会の凡ゆる催しに常に前衛的位置を保持して奉仕する。

信者達の現況(1)



(昭和三十五年十月撮影)

レジオ・マリエ(マリアの軍団) 教会の必要に応じて、布教、公教要理の指導、家庭の訪問、病人の見舞等に奉仕し、現在婦人会員中より十三名(殉教者の元后)姉妹グループより九名(平和の元后)の会員があり、姉妹達は主として日曜学校土曜学校の指導をしてゐる。

聖歌隊 男女信者の有志で組織し毎週一回例会を開き練習に励んでゐる。現在隊員約二十人

日曜学校・土曜学校 中学生グループ、小学生グループ、幼稚園児と卒園生のグループ等の数グループに別れ、毎週楽しく要理の勉強をつづけてゐる。現在生徒数合計約百数十人先生は主として青年男女信者が当り目下七人で指導してゐる。

「すみよし」(教会機関雑誌) 編輯発行委員会 年四回二十頁前後の騰写版雑誌を発行して全信者に配布、発行部数 300、数人の委員が中心となつて活動してゐる。

その他、

一粒会、(邦人司祭養生のため捧げる献金と祈りの会、)結婚互助会、(信者の結婚を紹介する機関、)図書部(信仰に関する図書の貸出しをする)等の集りや施設があつて、活潑に仕事をしてゐる。

信者の隣組組織

以上は主として信者の縦の組織に関するものであつたが、それ以外に横の組織即ち家族的連結を主として地域毎に隣組をつくることになり、昭和 29 年頃より会合を開始した。現在約二十組が結成され、各会合には必ず主任神父が出席し靈的指導に當つてゐる。別記の信者名簿も隣組単位によつて記した。

信者達の現況 (2)



日曜学校生徒



土曜学校生徒

【昭和三十三年十月】

楽しかった記録 (1)



或る年のバザー風景



淡路島神社にて
(昭和二十六年八月)



西宮トラスピスト修道院を訪問
(昭和三十二年秋)

各種の催しと

リクリエーション

二十五年の間に八回も主任神父は代った。そして信者もかなり入り替つてゐるが、二十五年來居る信者も又若干は残つてゐる。戦争と、重なる災害に苦難の多かつた住吉教会にも、又かなりの楽しい思ひ出も残されてゐるのである。その凡てをこゝに示すことは出来ないが、主なものを拾つてみることにしよう。

毎年の行事としては秋のバザー、春秋のピクニック、夏のキャンプ、それに幼稚園の運動会等忘れることが出来ない。

左頁上は或る年のバザーの風景、主として婦人会と、幼稚園との合同の催しで、老人も子供も、終日食堂や売店、遊戯類にむらがつて、さんざめきの裡に楽しい一日を過ごす。

同中は 昭和二十六年夏に男女青年達が明石から淡路島へ行つた時のもの、江崎の灯台を見学したり、美しい絵島の海岸で海水浴を楽しんだりした。

同下は 昭和三十三年秋、青年男女がピクニックを兼ねて、西宮トラスピスト女子修道院を訪問した時の記念。修院入口のマリア像の山の前で修院附神父様となごやかに交歓した。

楽しかった記録 (2)



運動会風景

【昭和三十三年六月】



坂越 キャンプ (昭和三十三年夏)



左頁上右左の二つの写真は昭和三十三年六月教会で初めて家族懇親の大運動会を開いた時のもの。子供達は勿論、青年も老人も、主婦もみんな、この日だけは童心に返って跳んだり、はねたり、はしやぎまわった。

同下の写真は昭和三十三年、坂越で催した夏のキャンプの記念。

ベロー神父はいつも子供が好きで、常に子供達の楽しみを考へてみた。そこで夏休みを利用して遠出のキャンプを計画されたのが昭和三十年の夏で場所は或る信者の親戚の好意で播州の坂越にある幼稚園の建物を借りて行つた。そこは五六十人でも一時に宿泊が出来るといふので、その年まづ第一回のキャンプを催をし、子供を中心として、それに大人、と青年男女が指導のために加わつて五十人ほどの一団で一週間、楽しい而かも規律ある生活をした。

それから毎年これが例となつて第二回まで坂越で、その次は丹後の由良、又その次ぎは丹後の宮津で催はし、いずれも沢山の人が参加し成果をおさめた。

創立二十五周年
記念行事 要 項

記 念 バ ザ ー

昭和三十五年十一月六日 幼稚園にて

記 念 式 典

昭和三十五年十一月十三日 午前九時より

荘厳ミサ・聖堂にて

西村良次副司教司式

祝賀式及び懇親会

ミサ後幼稚園にて、歴代主任神父を招待

家族大運動会

午後一時より幼稚園運動場にて

記 念 講 演 会

昭和三十五年十二月中旬 幼稚園にて

記念懇親ピクニック

昭和三十六年 春暖の候に催はす予定

(大阪司教認可)

昭和三十五年十一月十三日

神戸市東灘区住吉町丸の後二一三四番地

住吉カトリック教会

二十五周年記念アルバム刊行委員会